第4回学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年2月4日(火) 15:00～17:00

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽氏 (和歌山商工会議所専務理事)
村田 頼信氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)
和田 通尚氏 (海南市立巽中学校長)
梅田 千景氏 (和島興産株式会社代表取締役)
高垣 晴夫氏 (本校同窓会副会長)
西村 保展氏 (本校同窓会副会長)
藤田 勝範 (本校校長)

(学校出席者)

阪中 潤 (全日制教頭) 大石 歩 (全日制教頭) 松田 望 (地域連携担当)
西村 康宏 (全日制進路指導部長) 日裏 克 (全日制教務部長) 琴野 竜彦 (全日制特別活動部長)
小島 穰 (全日制生徒支援部長) 東 美幸 (全日制生徒支援部) 上田 裕子 (学校評価委員会委員長)
坂本 雅司 (全日制建築科長) 出口 峻司 (全日制機械科長) 清原 久雄 (全日制電気科長)
堀 新成 (全日制土木科長) 吉田 浩史 (全日制創造技術科長) 山本 元成 (全日制化学技術科長)
吉田 庄吾 (全日制産業デザイン科長) 中堅教諭等資質向上研修受講者5名
坂口 佳隆 (定時制進路指導部長)

- 【1】 開会
- 【2】 会長挨拶 (田中会長)
- 【3】 校長挨拶 (藤田校長)
- 【4】 議事 (議長：田中会長)

(1) 本年度の総括について(藤田校長)

配付資料に沿って、本年度の取り組みについて説明した。

数学の補習を希望する生徒に対し、和歌山大学の大学院生ボランティアに協力してもらいながら週2回実施した。来年度は数学だけでなく理科も実施予定である。

資格手帳を生徒に配付し、教室に掲示した。

創造技術科が課題研究にて長期インターンシップを実施した。他企業からもインターンシップを行ってほしいとの声もある。

昨年まで1年生で実施していたインターンシップに代わり、2年生の希望者のみで夏休みに実施できるような計画をしている。

教員対象の企業説明会「日本製鉄グループ」を行った。教員からも企業からも好評であった。

進路ガイダンスをこれまでの学科ごとではなく、まとめて実施した。2年生は12月17日、1年生は1月21日であった。

ロハスフェアに出店をした。ものづくりだけでなく販売を行うことによって学びが2倍、3倍になった。中学生体験学習をオープンキャンパス方式で行い、自ら考え、自ら見学できるようにした。

球技大会を2月27日に実施予定である。生徒からの要望で、生徒会が中心となって動いている。

夏制服にポロシャツを導入した。来年度からはワンポイントは認める方向である。

修学旅行は分宿でなく、大型リゾートホテルに変更し、スノーボードの選択もできるようにした。

紀州材を用いたコースターをホテルアバローム紀の国と提携し、製作をしようとしている。ホテルアバローム紀の国で販売予定である。和歌山の宣伝になると期待している。

情報モラルなどを含んだ闇バイトに関する講演会を実施予定である。

eスポーツ同好会は大会にも出場し、好成績を残すことができた。全日制、定時制の生徒が同じチームと一緒に戦うことで、生徒にとって良い経験になった。

学生団体 WAKA×YAMA SUMMER IDEATHON 2024 で審査員賞及びアドベンチャーワールド賞を受賞した。

定時制では、6つの行事に外部講師を招き、実施した。

LHR ではアンガーマネジメントなどの生徒支援に係るものを実施した。

ニュース&トピックスについて (阪中)

建築科1年生が瓦葺き体験を実習にて行った。

オリンピック講演会として、和工卒でロスオリンピックレスリング競技で銅メダルの湯元進一さんとパリオリンピックレスリング競技選手が来校し、1年生対象に講演会を開催した。

税の仕組みなどについて学ぶ必要があり、今年はじめて3年生を対象に講演会を開催した。

高校生向け森林・林業×SDGs 講座に参加し、木の伐採やドローン、チェンソーを使用した体験を行い、林業について学ぶことができた。

本年度の総括を受けて、各委員から以下のご意見をいただいた。

(村田) 数学の補習に対する生徒の参加率はどのくらいか。

補習を受けたという認定証があってもいいのではないか。

先生に対する企業説明会を行ったのはすごく良い。

進路ガイダンスの出席率はどのくらいか。

台湾の高校との交流も良かった。こちらから姉妹校提携などをして台湾に訪問するようなことは計画していかないのか。

教室での服装や態度、欠席などが気になる。授業についてこれらない生徒に対するケアやフォローは行われているか。

生徒のメンタル面で気になることはないか。

(阪中) 昨年の数学の補習では2,3年生を対象に行ったが、今年は3年生の対象に絞った。今年は8名が

参加し、学年末考査が終わっても補習を続けている。

進路ガイダンスについては6～7割が進学のブースである。午前は授業を行い、午後の半日を使ってガイダンスを行うので、その学年全員が参加している。

12月から怠け学や携帯の指導を強化しており、生徒は落ち着いて授業ができるようになった。また、授業を受けやすい環境に整えていくことが大切である。また、話すことが苦手な生徒が少なからずいるため、支援が必要である。

(梅田) 娘が学生の時は、退学者が一定数あり、学期を追うごとに、また学年を追うごとに生徒の減少が見受けられたが、いまでも退学をして進路変更する生徒は多数いるのか。

(校長) 工業高校ではかなり専門的なことを学ぶため、一旦入学したとしても向き不向きがある。進路変更をすることは一概にその生徒にマイナスになるのではなく、新しいスタートに繋がるようにしてあげたい。

(梅田) 商工まつりでは、今年の和工の生徒の元気がなかったように思う。慣れていないこともあったのかも知れないが、参加することや続けることが大切である。

(田中) 商工まつりでは参加した子どもたちが、ものをつくるのが楽しいと喜んでおり、そのことはイベントに協力してくれた生徒に伝えてほしい。

(和田) 1年を振り返るといろいろな取り組みをしていてすごいと感じた。

進学後を見据えた補習も良いと思う。基礎学力の底上げにも注力していただきたい。

ロハスフェア、商業教育フェスタ、瓦ぶき体験、林業体験など、こどもたちが「楽しかったな」と思うような経験を増やして行ってほしい。

情報モラル教室や薬物乱用講座も続けて行ってほしい。定時制で行ったアンガーマネジメントの取り組みは全日制では行わないのか。

生徒にいろいろな経験をさせようという意識を絶えず持っておいてほしい。

(西村) 全日制、定時制の共同の取り組みを嬉しく思う。交流が深まり、学校行事が充実している。(eスポーツ同好会やアサリの研究など)

資格手帳の実施も良い。学校外に出て行く取り組みも続けて行ってほしい。

全日制での防災への取り組みはどういうことを行っているか。

地震等があった時の心構えや対処を学ぶのも1つである。

(阪中) 11月に避難訓練を実施した。また、夏休み中の登校日で防災に関する出前講座を行っている。

(田中) 全日制と定時制の交流は意識的に行っていると思うが、具体的にはどのようなことをしているのか。

(校長) 今年度は、eスポーツ同好会や110周年記念式典、文化祭などで交流を行った。交流自体の人数は少ないが、もっと行事やクラブ活動を通して交流する人数を増やしていきたい。定時制の生徒の中には、全日制の生徒と一緒に何かをすることを苦手とする生徒もいるため、機会はたくさん設けたいと考えるが、慎重に進めたい。

(高垣) 後ほど資格手帳を見せていただきたい。

球技大会は何の競技をするのか。

ホテルアバローム紀の国でのコースター販売をした場合は、その収入はどうなるのか。

「ものをつくる」ことから起業につなげられないか。

実用新案の提案や特許申請などについて学ぶことは自信の進路について考える機会に繋がるのではないか。

防災スクールで地震等があった時に地域に対してどうしていくべきか、生徒たちはどう対応すべきか、災害廃棄物はどうするのか事前復興計画を作ることはできないかなどを高校生が考えることも必要である。

(校長) 球技大会はドッジボールを行う。

コースターに関しては、紀州材の仕入れや販売売り上げなどすべて収支をつけ、余った分については、実習費に戻し入れることとする。お金の取り扱いについても学び、次のステップに発展させていきたい。

(田中) 「ものづくり」だけでなく、そこで終わらず、発展させていくことが大切である。

和歌山商工会議所で手伝えることもあると思うので、いつでも声をかけてほしい。

(高垣) eスポーツの指導者はどうなっているのか。外部講師を雇っているのか。

(校長) 今年度については和歌山県が派遣する指導者の方に指導をお願いしている。また、一部オンラインで指導を受けたこともあった。

顧問も全日制から2名、定時制から1名付いている。顧問の指導力も上げていかないといけないが、生徒が主役なのでサポートする形としている。

(田中) 長期インターンシップに参加した生徒の感想はどうだったか。

(阪中) 参加した生徒に直接感想を聞いていない。

今年、長期インターンシップに行った生徒が、その企業の就職試験を受けた採用されなかったことがあったので、実施時期については検討が必要である。採用されなかった場合の生徒のショックが大きい。

(田中) 先生向けの企業説明会はどうだったか。先生方の意見を聞きたい。

(西村 (全日制：進路指導部長))

企画の意図としては、企業も教員もお互いを知る機会が必要だと考えたからである。

最初は企業側が教員へ説明をするのは、対生徒に説明をするのとは意味合いが違うのでハードルが高いと感じていたようである。教員側は、どの企業がどういう生徒がほしいと考えているかを知ることによって進路指導に繋がると考える。

今回の教員向け企業説明会で、求める人材の共通理解ができたと思う。

(阪中) 進路指導部は、進路指導室で企業からの説明を聞くが、それが生徒に伝わりきらないことが多い。

生徒が相談する相手は保護者、担任、科の先生である。そのため、特に担任となる先生方にも企業に関する知識が必要であると考え実施した。

企業によって求める人材に違いがあることが分かった。担任がどんなことをしている会社なのか少しでも説明ができて、生徒が選択できるようになればいい。

(田中) 教員向けの企業説明会の取り組みはすごく良いことだと感じる。

和歌山では化学系の企業がたくさんある。同じ化学系の企業でも事業内容が違ったりするので、組合に声をかけたりすると化学系の企業でも教員向け企業説明会が実施できるかもしれない。球技大会の実施など、生徒達の声はどのような形で取り入れているのか。

(校長) 生徒会が生徒の意見をまとめて持ってくる形を取っている。生徒会と話し合いながら、1人の人

として丁寧に向き合っている。すぐにできることは、すぐしてあげようと考えている。

大人に訴えかけ、話し合い、実現すると自信に繋がり、また学校との信頼に繋がる。計画的にしなくてはいけないものは説明して理解を得るようにしている。

(額田) 今年度は、移動教室の時計やトイレの流水音などの設置は実現できた。

(田中) 生徒の声を聞くことはとても大事である。

授業態度や服装の乱れは指導法を考え、学力面ではしっかりフォローしてあげてほしい。

授業についていけない生徒に、少しでも「分かった」を実感させることが、その生徒の学校生活が楽しくなることに繋がるのではないか。

(高垣) 技能の「すごい」が技になる。3年生の取り組みを1年生に見せてあげることはできないか。

様々なことが自動化されたり、AIが普及したりしているが、そこには人間の主体性が必要となる。主体性を育てる教育をお願いしたい。

和歌山産業技術専門学院との交流があっても良いのではないか。

和歌山県でも「こどもまんなか」施策を行っているが、生徒たちの意見をしっかりと反映させるようにお願いしたい。

「つくる人を育てる」学校を目指し、生徒たちに翼をつけて卒業させてあげてほしい。

(2) 来年度の学校運営協議会について

(田中) 先生方から、学校運営協議会に対して、こういうことをしてほしい等の意見はあるのか。

(高垣) 学校運営協議会委員の3つの権限を使って良い環境にしていきたいので意見をお願いしたい。

(西村 (全日制：進路指導部長))

先日、県労働政策課から次年度の予算についての説明があり、会社見学等に活用していたバス代の予算が削減されたと聞いた。岸本県知事も工業高校に力をいれてくれるという話を聞くので、なんとかしてもらえないか。

実際の現場を見せることでイメージをもつことができる。

(坂口 (定時制：進路部長))

定時制は、全日制と比べると求人数は少ないが、1人あたり100社くらいある。

和歌山以外の他府県からはこの時期でも、就職活動している生徒はいないかという問い合わせがあり、熱量が違うと感じる。和歌山市の生徒は海南や有田に就職することと比べると、山を越えて大阪に就職する方が通勤も近いという感覚を持っているように感じる。現状、生徒が他府県に流出してしまうのではないかと心配する。

(田中) 厳しい意見をありがとうございます。そういう意見をいただけるのは嬉しい。

企業にアナウンスしておきます。

(高垣) 学校評価について、評価項目の中で、評価しづらい項目があるので、変更が必要だと思う。

検討をお願いしたい。

(和田) 在校生の様子が気になる。7つの学科の授業を全て見てみたい。

(阪中) 過去には座学や実習の授業を学校運営協議会の皆様に見学していただいた。

ゆっくりと授業を見ていただく時間の確保が難しいので、学校開放月間の際に自由に見ていただくなど、方法を検討したい。

(村田) 若手教員の将来構想委員会があったと記憶しているが、その委員会ではどのようなことが話し合われているのか聞いてみたい。また、将来構想委員会の先生方と一緒に議論をしてみたい。

(西村) 卒業したらついてくる資格があると思うが、それが見て分かるものがあるといい。資格手帳などに明記することはできないか。

授業中に災害が発生した場合、生徒の皆さんは授業中であるにも関わらず、地域の方々が避難し

て来る事態も考えられる。そのような場合を想定した防災計画はあるのか。防災計画を生徒たちと一緒に考えることはできないか。

(大石) 電気科には第二種電気工事士の受験の際に学科免除があったり、建築科では 2 級建築士の受験資格が得られたりするものがある。

(高垣) 入学案内のパンフレットにも書いているが、もっと分かりやすいようにしていけば良い。

(田中) 学校運営協議会として取り組めることがあると思うので、次年度も先生方の意見を聞きながら学校運営のために学校運営協議会を進めていきたい。

【5】 閉会 校長挨拶